

事業所名

わくわくキッズ倶楽部いこいの家 児童発達支援

支援プログラム

作成日

R7 年

2 月

12 日

法人（事業所）理念	本来その子供が持っている可能性を引きだしていただける支援を目指します。「できるようになる」支援だけでなく「することの意味がわかる」支援を目指します。		
支援方針	児童発達支援・放課後等デイサービスを通じて幼児・児童が集団の中で活動していく力を習得することを中心に支援します。		
営業時間	9 時	0 分から	18 時 0 分まで
	送迎実施の有無	あり なし	
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	健康状態の維持や改善、基本的な生活スキルの習得、生活リズムの形成の支援方法を考えます。睡眠、食事、排泄を身に着ける方法。食を営む力の育成と楽しい食事への配慮（感覚等）支援（咀嚼、嚥下、姿勢保持等）します。遊びの中や日常の学習機会を利用した支援、環境配慮を工夫します。	
	運動・感覚	運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感、様々な体の感覚・感触に触れ、感覚の成長を支援します。体の感覚は、力加減や、体の動きをコントロールするだけでなく、気持ちやテンションのコントロールにも役立ちます。ミュージックケア・音楽遊びの活動にも含まれます。活動の中に運動教室を取り入れています。	
	認知・行動	特性に合わせて、どのような方法、環境設定であれば円滑に学習できるかを模索し支援します。また、「着席」「大人をよく見る」「少し嫌なことも頑張っている」等課題に向く姿勢、力がつくよう支援します。頑張ると「楽しい」「やってよかった」と感じるように関わり方や内容を工夫します。	
	言語コミュニケーション	「要求」「報告」「聴く」「観察する」など自分も周囲の人も大切にコミュニケーションを学びます。言葉だけでなく、ジェスチャーやカードなど、子どもに合った方法を考え支援します。	
	人間関係社会性	ソーシャルスキルと言われる支援です。「順番交代」「役割」「ルールを守る」「指示に沿った行動をする」など社会に適用する為に必要なスキルを支援します。また「感情に気付く」「感情に名前をつける」「対処法を考える」など、気持ちのコントロールを練習します。また、ストレスが強い状態の時には、子どものペースに合わせて関わり、ストレスを発散する方法を考えます。	
家族支援	日常生活において、本人の意思を大切にしながら、やり取りをする場面を増やします。	移行支援	日常的な連携に加え、特に行事等の際には、説明の方法や促し方について共有を図る。
地域支援・地域連携	関係機関で役割分担を行うと共に、それぞれの機関で得られた情報を共有し、日常的な生活や支援に活用するための具体策を提案する。	職員の質の向上	社会福祉協議会等の研修参加 事業所間の情報共有によるレベルアップ
主な行事等	サッカー大会・節分（豆まき）・ひな祭り・プール遊び・夏祭り・ハロウィン・クリスマス等季節の行事を行います。 課外活動で動物園・水族館等施設の見学に行きます。		